



2014年
8月10日
NO.377

九州旅客鉄道労働組合
福岡市博多区博多駅前2丁目3-23
TEL 092-472-7950(代)
URL http://www.jr-krwu.org
発行人/許斐元文 編集人/木村智隆

JR九州労組 第23回定期大会

新たな時代へ確かな継承

先輩から引き継いできたものを次世代に引き継ぐ運動を

JR九州労組は、7月11日、熊本市「ANAクラウンプラザホテル熊本ニースカイ」において、「飛躍・信頼・創造」新たな時代へ確かな継承」のスローガンの下、第23回定期大会を開催し、2014年度の運動方針を決定するとともに、新たに策定した「中期労働政策ビジョン（チャレンジ2018）」の実現にむけ、各級機関が一丸となって運動に邁進する決意を固めあった。



議長団の森永氏（左）、神原氏（右）

大会には、執行部・代議員・来賓・傍聴者など約230名が出席、議長団には森永代議員（福岡）と、本部大会初の女性議長となる神原代議員（熊本）を選出した。中央執行委員会を代表して許斐委員長は、昨年からの取り組みである「次世代役員育成と継承」「組織問題」「2014春闘」につ

いて総括するとともに、今年度も、会社とは是々非々で対峙する姿勢を崩すことなく、課題解決に向け取り組む決意を表明した。また、新たに策定した「中期労働政策ビジョン」にふれ、

「今後、このビジョンを実現するには、ベテラン役員の経験と、若手の柔軟な発想、そして知恵が要求される。そして私は年頭のあいさつで、今年を私達が先輩から引き継いできたものを若い人達に引き継いでいく『継承元年』にしたいと申し上げた。このような状況を踏まえ、今年度メインスローガンのサブタイトルは『新たな時代へ確かな継承』としている。今後、様々なことを継承していきたいと

思っているので、代議員各位の協力を強く要請する。今年度も安全最優先を基本に、私も先頭に立って課題解決に取り組んで行くことをお約束する」と所信を述べ、来春実施される統一地方選挙の勝利にむけ、組合員・家族が一体となった取り組みを行うよう要請した。（要旨別掲）

議事では、執行部より昨年の定期大会以降の経過報告と、新年度の運動方針（案）を提起。23名の代議員から運動理念、各種効率化施策への対応、組織機構・運営方法の見直し、青年・女性委員会の育成・強化、高齢者の待遇改善など多岐に亘る発言があり、担当部からの中間答弁、書記長集約答弁を経て、全議案が満場一致で承認された。その後、大会宣言を採択し、最後に許斐委員長の団結がらばろうで閉会した。



第23回定期大会【7月11日 熊本市】

JR九州労組第23回定期大会にご参集の代議員・傍聴者の皆さん、大変ご苦勞様です。

また、ご来賓の皆さまにおかれましては、ご多忙中にもかかわらず私どもの大



会にご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。高い席からでございますが、構成員を代表して心より感謝申し上げます。中央本部は、昨年開催した第22回定期大会において

新たな執行体制を確立し、早いもので1年が経過しました。私は就任あいさつで「できる限り現場に向き、組合員の皆さんと対話したい」と申し上げ、総対話集は勿論のこと各種セミナー

に参加し、委員長としての想いなども話してきました。特に今年から各地区で開催しました各地本・分会役員セミナーについては、必ず本部三役が出向いて組合の方向性や政治・政策課

題、そして組合が交渉して勝ち取ってきた内容などを話してまいりました。参加者からは、「参加して良かった」「組合のやっていることが良くわかった」「政治との関わりや大切さ

ている中、残念ではありませんがJR採用の若い組合員2名が脱退し、国労へ加入するという事態が発生し、また、出向者を中心に高齢者が脱退するなど組織問題も発生いたしました。

尽力いただくことを要請しておきます。次に2014春闘について振り返ってみますと、本部は2月7日に開催した第26回中央委員会で、「純ベア3,000円」「夏季手当3,000円」をはじめ諸労働条件の改善要求を皆さんと意思統一し、2月10日に会社へ要求書を提出しました。

「継承」を実践し、若い役員育成の年に

許斐中央執行委員長あいさつ【要旨】

「継承」を実践し、若い役員育成の年に

が良くわかった」など、多くのご意見をいただきました。組合員の皆さんに正しく伝え、皆さんの意見を聞くことが如何に大切かを再認識させられたところで、そのような取り組みを行っ

私はこれらの事態を重く受け止めており、今後、各地本と連携を取り、様々な場所へ出向き組織の強化に努めてまいります。各分会役員も皆さんも組織の強化・活性化に向けさらにご

開すると同時に、組合員・家族の皆さんから署名や楳布など、2014春闘に対する熱い思いを届けていただき、本部交渉を激励していただきました。

ヤマ場を迎えた3月13日、春闘の集大成として初の「2014春闘勝利中央総決起集会」を開催し、九州各地より100名を超える組合員の皆さまが集まってくれました。そして最後までベアに拘る闘いを展開することを参加者全員で意思統一しながら、最終交渉に臨みましたが、「基幹事業である鉄道事業は未だ100億円超の赤字であることや、株式市場に向けて経営安定基金に依拠しない、強固な経営体質へ改善していく必要があること、さらに

許斐中央執行委員長あいさつ【続き】

景気の先行きが不透明である「ことなどを理由に「ベアを実施することは困難である」と主張する会社の厳しい姿勢を崩すことができませんでした。

しかし、本部はあくまでもベアに拘るといふことで純ベアに等しいものを引き出すと更に交渉を展開し、その結果、「55才以上の賃金改善」と、「子育て支援策として扶養手当を増額する」ことができました。

次第です。

今後様々な課題に直面することがあると思います。が、会社とは「是々非々」で対峙する姿勢を崩すことなく、課題解決に向け取り組んで行くことをお誓い申し上げます。

さて、私たちJR九州労組は、JR九州を代表する責任組合として、組合員・家族のより一層の幸福を追求するため、今日まで様々な取り組みを展開してまいり、今後も取り組み続けねばなりません。

本部は、組合員の皆さんに「組合が何をしているのか」「何をやろうとしているのか」「組合はどこを指しているのか」ということが分かるものを示したいとの思いで、新たな労働政策ビジョンづくりに取り組みました。

指しているのか」ということが分かるものを示したいとの思いで、新たな労働政策ビジョンづくりに取り組みました。一年間という短い期間でしたが、何とか「チャレンジ2018」を策定することができました。本来であれば策定の途中で組合員の皆さんにお示しし、職場で討議していただかなければならなかったのですが、そのような期間を設けることができなかったことをお詫びします。

合を担う若者の意見が多く反映されているということ。内容は「新ビジョンでの達成目標」と「株式市場までに達成すべき目標」をお示ししていますので、後ほど建設的なご意見をいただきたいと思います。

柔軟な発想は若者にしか出せないと思っています。しかし、その経験を持ったベテラン役員は徐々に去っていき、若手と言われるJR採用の組合員は、既に組合員全体の40%以上を占めるほどになっています。

「感謝」「謝罪」の気持ちを素直に表せる役員を育てたいと思っています。特に「謝罪」は、「あの時に謝っていたら、うまくいったのに」と思うことや、「嘘をつかずに素直に謝っていたら、事が大きくならなかったのに」と、私の若かりし当時を振り返り、自戒も込めて若い人を前にするとこのことをよく話します。

最後に、今後、様々な取り組みを展開するにあたり一番大事なことは「安全の確保」です。大きな事故を起こしてしまえば会社の経営は立ちいかなくなり、労働条件の低下につながりかねません。今年度も「安全最優先」を基本に、私も先頭に立って課題解決に取り組んで行くことをお約束申し上げ、中央執行委員会を代表しての挨拶とします。

「新中期労働政策ビジョン」の「実現へ、共に取り組もう！」

J R連合会長 松岡 裕次



J R九州労組には、日頃よりJ R連合の取り組みに対し、絶大なご支援とご協力を賜っていることに先ずもって感謝を申し上げます、J R連合に課せられた課題

4点について述べたい。1点目は、安全問題についてである。この間、「安全の確立」と「信頼回復」に向け真摯に取り組んできた。しかしながら、6月には、JR東日本管内において、7月にはJR東海管内において作業にあたっておられた協力会社の方が亡くなる重大労災が発生した。JRが発足して四半世紀が経過したが、このような業務中における労災死亡事故で亡くなられた方は、300名を超えており、大変由々しき事態であると考えてい

る。この間、JR連合は「重大労災防止の行動指針」を活用し、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目指して取り組んでいるが、引き続き「安全確立」に向けた取り組みの強化を図ってきたい。また、JR連合としても鉄道の防災・減災対策への老朽化対策についても確実に取り組んでいく。

2点目は、組織課題についてである。JR連合は、JR労働界から非民主的な勢力を排除する民主化闘争の活動にこれまで取り組み、今日まで15年が経過したが、残念ながらJR北海道、JR東日本、JR貨物において、非民主的な勢力が多数残っているのが実態である。このような状況の中、我々の仲間である東日本ユニオンにおける組織問題が発生した。東日本ユニオンは、革マル勢力が残存している可能性があると言われているJR労組と組織統一をし、大変な混乱を招き、皆様には多大なご心配をおかけしたが、今回、非民主的な勢力をこのJR労働界から排

除することを目的に「民主化共闘会議(仮称)」を設置する。残念ながら、JR東日本内において組合の分裂が起きてしまったが、同じ目的を持った仲間同志として、今後、緊密な意見交換を図りながら解決の糸口を見つけ、さらにJR北海道、JR貨物へと取り組みを強化・拡大していきたい。

3点目は、政策課題についてである。現在、JR三島・貨物に対し、JR連合内に3つのプロジェクトを立ち上げている。今年も、10月10日に政策シンポジウムを開催し、この3つのプロジェクトに対するこれまでの一定の成果として中間総括を報告する予定である。こうした情報を組織の内外に発信し、政策課題の実現に向けて取り組んでいき

い。JR九州では、「株式上場」や「九州新幹線の西九州ルートの前倒し開業」が今まさに政治の場で議論されようとしている。本日、JR連合国会議員懇談会の高木会長もお見えであるが、このような課題に対し、JR連合国会議員懇やフォーラム議員の皆さんをはじめ、多くの方々と議論を深めながら、JR九州労組と共に取り組んでいきたい。

4点目は、「新中期労働政策ビジョン」についてである。JR連合第23回定期大会において、新たな「新中期労働政策ビジョン(2014~2018)」を提起し、承認をいただいた。JR連合とJR九州労組の「新中期労働政策ビジョン」の実現と、JRに働くすべての労働者にふさわしい労働条件の確立にむけ、共に取り組んでいきたい。最後に、JR連合国会議員として活躍して頂いた三日月大造前衆議院議員が、滋賀県知事選挙において奮闘中である。皆様方の応援を切にお願いして、私の挨拶とする。※滋賀県知事選挙は7月13日に投票され、三日月滋賀県知事が見事誕生しました。皆さんのご支援ありがとうございました。ごいしました。

【2013年度】 優秀分会表彰

Table with 2 columns: 最優秀分会 (Best Outstanding Branch) and 優秀分会 (Outstanding Branch). Lists branches from Fukuoka, Oita, and Kyushu regions.

【2013年度】 機関紙コンクール

- 最優秀賞 福岡地方本部
優秀賞 鹿児島乗務分会

おめでとうございます!!



参議院議員
野田 国義



参議院議員
大久保 勉



衆議院議員
高木 義明



社民党熊本県連幹事長
今泉 克己



民主党熊本県連代表
鎌田 聡



連合熊本会長
上田 淳



熊本市副市長
高田 晋



熊本県商工労働局長
宮尾 千加子

〈主な来賓の紹介〉

(順不同・敬称略)



JR九州労組議員団団長
村山 弘行



交運共済九州事業本部長
福田 博州



九州労働金庫理事長
川野 和幸

この他にも、多数のご来賓の皆様に出席いただきました。ありがとうございます。

〈祝電・メッセージ〉

(順不同・敬称略)

- 衆議院議員 高木 義明
- 衆議院議員 原口 一博
- 衆議院議員 野間 健
- 参議院議員 大久保 勉
- 参議院議員 野田 国義
- 始良市議会議員 上村 親
- 日本郵政グループ労働組合九州地方本部
- 西日本鉄道労働組合
- 全国交運共済生協九州事業本部
- 全労済福岡県本部
- 明治安田生命
- J R北海道労働組合
- 東海旅客鉄道労働組合
- 西日本旅客鉄道労働組合
- 四国旅客鉄道労働組合
- 日本貨物鉄道産産業労働組合

ありがとうございます。

代議員の活発な発言により 運動の経過・方針を更に補強



小湊代議員

小湊 浩平 (熊本地本) 新人事・賃金制度における乗務員の激変緩和措置について、平成27年度以降も継続できるようお願いする。

また、全社員対象の均等配分については平成27年4月に1,000円追加支給されるが、これを理由に廃止させないよう併せて取り組みをお願いする。



延時代議員

延時 勝敏 (鹿児島地本) 事業所懇談会の設置について、組合員と管理者とのコミュニケーションの場として早期実現を要請する。

こうした仕組みができれば、組合が一層身近になり、存在意義を示していけると考える。

定村 博之 (福岡地本) 効率化施策について、小倉駅の運転取扱業務体制の



定村代議員

見直しについて、小倉駅のホーム担当が削減されるのではないかと危惧している。小倉駅各ホームは曲線であり、視認性に問題があり、また、駆け込み乗車によるお客さまのドア挟み対応など、「安全」確保をどう担保するつもりか。しっかりとした、協議をお願いする。

合員等への対応をより丁寧に取り組むこととし、対象を絞った集会を開催してきた。引き続き取り組んでいきたい。

次世代育成について、2014春闘時に平成採用の組合員を中心に、春闘交流会や春闘セミナーなどの企画、運営を行わせ、育成に努めてきた。引き続き、次世代への継承にむけた取り組みを行っていく。また、地本、青年・女性委員会、分会において、転勤や退職に伴い、役員不足が常態化しており、組織運営が成り立たない恐れがある。本部の指導をお願いする。

今年度、マイルールオペレーション目標額の見直しはされたが、対象商品は大幅に減らされており不満の声が上がっている。引き続き改善をお願いする。

指宿枕崎線において列車脱線事故が発生したが、災害に遭遇した運転士が、マスコミのインタビューを受けた。マスコミ対応は、いかなる場合も会社として対応すべきであると認識している。不幸な社員をつくることにならないよう、会社に申し入れて欲しい。LINE九州としてガイドラインを設けていると聞いた。内容

及び社員への周知方法についての検証をお願いする。また、全乗務員に対して業務用携帯電話の貸与をされたい。



佐田代議員

佐田 勝也 (長崎地本) まず、故岩永健一氏の遺族への援護資金に対し、多くの組合員の皆さまからご厚情をいただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。また、人間ドックの受診年令の引き下げを強く要望する。

組織強化・拡大について、今年1月に平成採用の組合員脱退、他労組への加入を許してしまった事態を受け止め、分会の活性化を重点項目に掲げて取り組んできた。組合員の悩みを各役員が真摯に受け止め、相手の立場に立って物事を考え、問題解決を図っていくことである。JR九州労組に所属するメリットを強くアピールし、JR九州労組の組合役員としてのやり甲斐が見えるような取り組みが必要である。本部の考えを伺いたい。

組合財政の確立について、厳しい財政状況が続く中で、いかに次世代へ繋ぐ運動を継承するかが重要である。組合費改訂は組織運営上大きな課題であると認識しており、地本としても組合費

の値上げを行わないためにも地本剰余金の返納を行うことについては賛成であるが、地本剰余金をあてにした運営でなく、組合費収入に見合った運動の展開を議論していく必要がある。本部の見解を伺いたい。



川畑代議員

川畑 哲実 (福岡地本) 2014春闘について、ベアへの期待感が大きかったこともあり、組合員は落胆している。2015春闘における組合員・家族総がかりの取り組みとは、署名のことか。ストライキ指示を出すことはないと思うが、それぐらいの覚悟を持って交渉に臨んで欲しい。本部に対しては、全体で闘うという方法もあることを主張しておく。

効率化計画の内、4両ワンマン運転であるが、多客時間帯、異常時対応を含め、安全確保の点から列車防護をいかにして確保するかが重要である。運転士は、定時運行の気持ち優先し、「安全」が疎かになってしまわないか心配である。年休制度について、時間給の制度化をお願いしたい。

平川 正也 (大分地本) 労働時間管理の問題について、現在でも始業前の作業や休日に出社し個人用パ

ソコンでなく、共有パソコンを使用し業務を行っている社員がいるとも聞いている。要員削減は限界に来ており、必要な要員を増やすことをお願いする。

経費削減について、施設関係職場では、業務上必要なマニュアルを、会社は有料で社員に購入させているが、業務上必要なものは会社が用意することが当然である。実態を確認し改善するとともに、購入した社員への代金返却を要望する。



平川代議員



池田代議員

池田 良弘 (鹿児島地本) 組織運動の継承について、組合運動の原点は職場であり、分会活動の活性化が、最大の課題であるが、分会の活動に温度差が生じてきている。全分会の状況分析を行い、焦点を絞ったオルグ活動と役員の育成を含めた分会指導をお願いする。今年4月、我々の職場で脱退問題が発生した。組合員から出された意見、質問が正しく伝わっているのか、またフィードバックできているのか、方法等を含めて本部、地本、分会でそれぞ

れ検証しなければならぬ。組合員と情報の共有化を図り、職場で発生している課題は、職場で解決していくことを基本とし、組合員が集まる場をつくりながら分会活動に取り組んでいく。



久保田代議員

久保田耕二(福岡地本)
効率化施策について、小倉駅の運転取扱業務体制の見直しは、安全を犠牲にする恐れがあり、会社に対し再考を促していかなければならない施策である。本部の考えを伺いたい。

働条件等について、改正労働契約法により、労働契約が更新されたときは、労働者の申し出により無期労働契約に転換できることとなり、平成31年には完全適用となるが、前倒しでの早期実施を強く要求する。また、無期労働契約となった場合の労働条件は、同一価値労働同一賃金の観点からも、退職手当や住宅援助金等、社員と同様となるよう制度改革が必要である。また、次世代育成支援制度の充実からも、主要駅の保育施設設置を強く要求する。

女性組合役員の育成・選出について、平成採用の若手が自ら切り込み、組合活動の見える化を図るべきである。また、本部主催のセミナーのみならず、意見交換会等を地本単位で開催するなど、特定の組合員が長期間にわたって担当ではなく、例えば4年程度で交代して循環していくことができるよう、体系的な人材育成も必要である。

来春の統一地方選挙に向けた取り組みについて、JR九州労組議員団は、地方行政とJRとのパイプ役という重要な使命を担っている。三島特例や承継特例をはじめとするJR三島・貨物の経営支援策についても、各議会においての意見書採択などに尽力をいただいている。福岡地本も、全員の当選に向けて取り組みを強化しているが、本部のバックアップもお願いする。



陣野特別代議員

陣野 真末(青・女)
女性社員の就労に係る労働

私は青年・女性委員会での経験は1年にも満たないが、これからのJR九州労組を担う節目の年に組合役員を経験させていただき、多くのことを学んだ。組合役員に必要なのは、豊富な知識や教養ではなく、自ら学ぼうとする姿勢と最大のボランティアである組合活動を楽しむことではないかと考える。女性が安心して働き続けることのできる制

度の実現を目指し、組合役員として多くの女性を巻き込みながら、いずれは地本さらには中央執行委員を目標に、まずは目の前の一步を大切に頑張っていく。



堤特別代議員

堤 清輝(運転部会)

線区別における雨量警報器の鳴動条件の見直しについて、近年の豪雨災害を鑑み、雨量警報器の鳴動条件について、運転する線区的地質や地形等の条件を反映し、実態に即した運転規制の見直しをお願いする。

検修の業務移管について、検修業務経験の少ない若年社員が契約業務を任せられる状況の中、JR及び移管先会社での技術継承策はどうなっているのか、疑問である。要員を減らすためだけの業務移管であるならば、会社へ厳しく追求していただきたい。

九州新幹線西九州ルート開業まで8年程度となっており、フリーゲージトレインの検修に関わる社員の教育や配置、熊本総合車両所に関する検修設備の改修等、前広に明らかにされた。

宮路 亨(福岡地本)

組織が機能し、活性化するまでしばらく時間を要するが、しっかりと検証し、今後どのような組織体制、運営方法がいいのか検討していく必要がある。組合員が身近に組合を感じ取れる組織体制と活動が重要であり、各支部・分会への効率的な指導体制を構築すべきである。



宮路代議員

後藤 俊司(大分地本)
客室乗務員に係る効率化施策について、大分ベースの廃止という施策が唐突に示された。これまで客室乗務員の組合員と本部との意見交換会を6日間に渡り開催したが、本部は、彼女たちの流した涙の意味、怒りと悔しさがどれほどであったのかを理解したのか疑問である。利益を上げられたいのは発足時から分かっていたことであり、車内サービスの観点から客室乗務員を乗務させたものであると考える。組合員の気持ちを第一に、本部は明確な考えを示すべきである。

を見せなければ前には進まない。「協力と対立」と運動方針(案)にもあるが、会社との関係を質していきたい。



後藤代議員



前原代議員

前原 弘志(鹿児島地本)

現在、宮崎地区においては、県協として、JR九州バス労組と合わせて300名程度の小規模な組織であるにも係らず、県連合、交運労協に役員を輩出し、政策課題の実現に向け取り組んでいる。また、交通重点政策意見交換会を積極的に実施するとともに、連合や交運労協に結集する産別単組へも働きかけを行っている。本部の協力をお願いする。

組織機構の見直し等についてである。この1年間を振り返って見たが、鹿児島地区、宮崎地区の広いエリアを、専従及び非専従の役員がメール等を駆使し、相互の状況、意見を交換しながら、全力で動き、各種活動に取り組んできた。しかし、4月に宮崎地区で起きた組織問題など、緊急を要する事態が発生した場合など、即応性、継続性に欠けることは否めない。鹿児島地本における専従役員定数の見直しを強く求めたい。

ど、即応性、継続性に欠けることは否めない。鹿児島地本における専従役員定数の見直しを強く求めたい。



尾花代議員

尾花有美香(福岡地本)

女性社員の待遇改善について、会社と交渉をしていただき感謝するが、育児休暇を取得している女性組合員は前進したとは感じていないのではないかと。女性社員及びパートナースタッフが、出産、育児を期に退職する理由の1つとして、不規則な勤務形態が考えられる。女性の就業意欲を促進し、職場環境を整えることが大事であるが、会社の考えを伺いたい。

女性専用寮の新設について、今後も女性社員が増加することが予想される中、吉塚新寮が建設されたが、男性社員も一緒に入寮している。代用寮はセキュリティ面で不安があり、また、設備面においても古い部分や、部屋数も1人で使用するには多いと感じている。女性専用寮の新設をお願いする。

桃北 勝美(熊本地本)
高年齢層の雇用制度について、賃金は55才又は57才で減額され、嘱託再雇用社員としての基本給は最低で15万円である。賃金は減

でも、業務内容も責任も何ら変わらず、増えるのは組合員の不満だけである。また、60才以降は、本人が希望する勤務地など、組合員が地元で就業できる制度を構築する必要があると考えられる。困難であるならば、何らかの手当を支給する制度等、検討をお願いする。

上之浦有紀(大分地本)

鹿児島地区から通勤している社員は、毎日片道2時間を超える通勤を余儀なくされている。熊本駅までの乗り越しについて、是非とも改善をお願いする。

教育の問題についてである。九州新幹線西九州ルートに従事する検修社員の養成を行わなければならないが、現在の要員では不足している。教育のための要員確保に向けた検討を早期に行っていただきたい。



桃北代議員



上之浦代議員

駅の要員について、大分駅では4月以降、要員が不足しており、年休も取れず、助勤も4月から6月まで殆ど出せない状況である。会社が算出する要員数と、